

PC ゲーム「ウルティマ」シリーズ

UOはその名が示す通り、PCゲーム「ウルティマ」の世界観を継承しています。リチャード・ギャリオットが作り出したこのシリーズ作はメジャーなナンバリングタイトルだけで「1」～「9」までが存在し、さらにサプリメントや追加シナリオが山ほど発売されています。追加分まで考えるとキリが無いので、ナンバリングタイトルに絞ってストーリーのベースラインを御紹介します。

UOも「ウルティマ」の名を冠する以上、その影響は図り知れません。ウルティマの特徴(正確にはU4以降の特徴・・・ですが)でもある「徳」の考え方は、UOではゲーム的にも重要な要素されていますよね。そして、これは他のゲームには無いまさにオリジナリティ溢れる設定でもあります。これを意識したシステムやクエストは、最も「ウルティマ」らしいものといえるのは間違いありません。

各タイトルで登場したキーワードと、UOとの関連についても簡単ですが触れてみますが、あくまで私の見解であり、公式の設定と同じというわけではない点には御注意を。原典を見ながらUOの今後の展開を予想してみるというのも、なかなか楽しいものなので、皆さんが考える材料になれば・・・と思っています。

2007年発売予定の拡張パッケージ「ウルティマ オンライン ステイジアン アビイス」の発表に伴い、この名前が出てきた「ウルティマ」の別シリーズとでも言うべき「アンダーワールド」についても記述をしておきます。

PDFJ::Text=HASH(0xb78af2f8)

ソーサリアを支配する悪の魔術師モンデイン (Mondain) を倒すため、ソーサリア各地を旅した主人公ですが、しまいには宇宙にまで進み、タイムマシンまで使うことになってしまいます。それでも何とかモンデインは打ち倒されました。しかし、このとき力の源だったモンデインの宝珠が砕かれた結果、ソーサリアはロード・ブリティッシュが統治していた地域を残して崩壊してしまっただけです。

UOのオープニングムービーでも、この戦いのことは描かれていますね。UOの場合、砕かれた宝珠の破片それぞれにソーサリアが宿っており、その一つ一つが「シャード (破片世界)」となった、ということになっています。そのうちの一つにプレイヤーは降り立つわけです。

PDFJ::Text=HASH(0xb78dab44)

Mondain 討伐後、その弟子であり妻でもあった Minax が復讐のため主人公の住む太陽系を過去に遡って腐敗させ、主人公のいる現代の世界を破壊してしまいました。こうして、再び主人公は自分の世界を元に戻すため、宇宙と時間を駆け巡り Minax を倒す旅に出ることとなります。

Minax は、UOにおいては Lady Minax として登場し、古くは「UOR」から現在に至るまで、様々な悪巧みの元凶となっています。つい最近も、オフィディアン侵攻の影に彼女がいたらしいことが分かっています。

またフェルッカで活動する派閥の一つは、彼女の名「ミナックス」で呼ばれていて、カオス (混沌) 側の勢力として、フェルッカ世界の支配を目指しています。2008年に入って、もう片方のカオス側勢力「シャドウロード」も台頭しそうですが。

PDFJ::Text=HASH(0xb7600930)

Mondain と Minax によって産み出されたものがソーサリアを侵蝕し始めていることに気づいた Lord British により、主人公が召喚されます。ソーサリアを侵蝕するものの探索と破壊が、主人公の使命です。結果として、Mondain が未来世界から持ち込んだコンピュータ Exodus の存在が明らかになり、苦難の末 主人公は仲間と共に これを打ち滅ぼしました。この過程でソーサリアでは大きな地殻変動が起きています。

UO においては「UO:LBR」で Lord Blackthorn が Exodus をブリタニア侵攻に利用しています。その城はいまだにイルシェナーに存在しており、その機械的な構造物は今もまるで動いているかのようです。当時の侵攻に参戦したモンスター群は、今もここに巢食っています。

PDFJ::Text=HASH(0xb7655268)

ソーサリアは Lord British によって統一され、その国名を正式にブリタニアとしました。そこに住む者の規範となるものを探すため、主人公は召喚されて探索のたびに出ます。この旅で、主人公は三原理と八徳について学び実践して「Avatar(アバター)」となり「無限 (infinity)」と言う公理を導き出しました。そしてアビスに安置されていた智の經典の写本 (codex) を手にしました。

これ以降の「ウルティマ」を方向付けるタイトルとなったのが、これです。徳の概念が導入され、ブリタニアと言う世界もこのタイトルから固定されました。登場人物もここからレギュラーとなった人が多く、今後のシリーズでも Avatar となった主人公に協力して共に冒険をするようになります。

UO の世界も基本的にこのタイトルがベースとなっています。世界についてもほぼ同じなのですが、Magincia(マジンシア)だけはちょっと違います。U4 では驕り高ぶる商人の街だったマジンシアは滅亡しており、Lord British によって「謙譲」の徳を奉じる羊飼いの街 New Magincia(ニュー・マジンシア)となっています。

UO では、これと関連するかどうかは分かりませんが、Magincia は悪魔の軍勢の侵攻を受けて廃墟と化しています (2008 年現在)。この後、Magincia がどうなるのかはまだちょっと分からないですね。元々、UO のブリタニアで出版されている Lord British の著述では「Magincia の住人は「徳」について全く理解しておらず、何か良くないことが起きるかもしれない」と指摘されていました。

U4 で読み解かれ、UO においても実践されている八徳のありようについては、こちらを御覧下さい。ちなみに UO のヘルプドキュメント (F1 押して見れた) のタイトルが「智の經典コデックス」になってました (もっとも、F1 を押したら これが表示されるのが鬱陶しくて、F1 にマクロを登録していた人も多いような気はしますが)。現在、ペーパードールからヘルプを見ようとすると、WEB ブラウザが起動されて WEB サイトに誘導されるため、これを見ることは出来ません。

それからラストダンジョンは「Great Stygian of Abyss」という名でした。今度リリースされるはずの新パッケージが同じ名前です。

PDFJ::Text=HASH(0xb76e2534)

新たに発見された巨大な地下世界の調査に向かった Lord British が行方不明になります。その

間、王の代理として Lord Blackthorn が統治をしましたが、次第にその政策はおかしくなり圧政へと変わっていきます。その頃から Shadow Lord が現われているようですが、この事態を憂えたかつての仲間達に召喚されて、Avatar は Lord British を探し出す旅に出ます。無事に Lord British は救出されますが、調査していた地下世界は崩壊してしまいます。

Lord Blackthorn は Shadow Lord に操られていたことが発覚します。Mondain を倒して砕かれた宝珠の破片から生まれた、という彼らは三原理の対極「憎悪 Hatred」「臆病 Cowardice」「虚偽 Falsehood」の象徴でした。Shadow Lord を倒した後 Lord Blackthorn は、操られていたとはいえ国の安定を乱した罰として、エセリアル虚空間に追放されました。

余談になりますが、Lord Blackthorn 圧政下での八徳政策はこんな感じでした。普通逃げ出します・・・。

- ・ "誠実" →嘘をついたら舌を抜く
- ・ "慈悲" →人を助けぬものには同等の苦勞を
- ・ "武勇" →挑まれたら死ぬまで戦う
- ・ "正義" →自首せぬものは死刑
- ・ "献身" →収入の半分は寄付せよ、違反者は財産没収
- ・ "名誉" →不名誉な行動をしたものは自殺せよ
- ・ "靈性" →徳に背くものは死刑
- ・ "謙讓" →自慢するのも死刑

UO の世界では、宝珠の破片が「シャード:破片世界」となったため、そもそものシャドウロードの出自がちょっと違ってしています。しかし、フェルッカ世界で戦いを繰り広げる派閥の一つは「シャドウロード」と言う名前で、カオス(混沌)側の勢力として、フェルッカ世界の支配を目論んでいました。

そして、2008 年、いよいよシャドウロードそのものがブリタニアに侵略の手を広げ始めています。既にブリタニアの街のいくつかが侵攻を受けているという状況です。今後、どのように展開するのか注目されます。

PDFJ::Text=HASH(0xb745b5a4)

ブリタニアは突如として gargoyles(ガーゴイル)と呼ばれる種族の侵攻を受けます。gargoyles は自分たちの世界ガーグランドが崩壊の危機に瀕しており、それは Avatar の責任だと主張します。実際、U5 で地下世界が崩壊した時、その余波でガーグランドの殆どは水没し多くの犠牲が出ています。八徳の神殿は瞬く間に占拠され、Avatar が再度召喚されました。

調査を進めると、ブリタニアとガーグランドは表裏一体の世界で、アビスに納められていたコデックスによって支えられていたことが分かります。しかし、これを Avatar が持ち出してしまったため、均衡が崩れた余波がガーグランドを襲ったのです。gargoyles たちは、ブリタニアとは異なる三原理と八徳を奉じており、決して「悪の権化」ではありませんでした。Avatar は、コデックスを共有の財産と定め、gargoyles たちと和解する道を選びました。ガーグランドは完全に崩壊しましたが、生き残った gargoyles たちはブリタニアで暮らすことが出来るようになりました。

またまた余談になりますが、U6 で gargoyles たちが奉じていた八徳について御紹介します。直感的には日本人っぽいかも？

三原理は

- ・管理 (Control)
- ・情熱 (Passion)
- ・勤勉 (Diligence)」

で、そこから導き出された八徳は

- ・目標 Direction (管理)
- ・感情 Feeling (情熱)
- ・忍耐 Persistance (勤勉)
- ・均衡 Balance (管理 + 情熱)
- ・達成 Achivement (情熱 + 勤勉)
- ・正確 Precision (管理 + 勤勉)
- ・統一 Singularity (管理 + 情熱 + 勤勉)
- ・秩序 Order (原理なし)

となります。これらから導き出される公理は「統一性」です。

また U1 のボス Mondain は「管理」の体現者、U2 のボス Minax は「情熱」の体現者、U3 のボス Exodus は「勤勉」の体現者として、gargoyle たちに祀られていました。

U4 ～ U6 は、体系付けられた八徳が普遍的なものではない、ということを示す三部作となりました。

UO においては、イルシェナーにガーゴイルシティが存在し、そこに住む gargoyle たちからガラス細工や石細工の技術がブリタニアにもたらされました。ただ、U6 のようなガーグランドや独自の八徳は特に無いようです。

UO の gargoyle は、Exodus によって洗脳されていた過去があり、イルシェナーだけでなくブリタニア全土を巻き込むイベントを経て、ガーゴイルシティが解放された・・・という歴史があります。ただ、その後も洗脳された gargoyle はまだいて、ブリタニア各地のフィールド上でプレイヤーを襲ったり、イルシェナーの採掘場で働かされたりしています。

発表されている今後の拡張パッケージ「UO:SA」で種族として 選択できるようになるガーゴイルは、U6 で登場したガーゴイルの設定を引き継いでくるかもしれません。2008 年になって始まったシャドウロードの侵略などを描く「運命の戦士」という大きなイベントは、なんとなーく U5 をベースにしているっぽい所があるのを見ると、そこからのストーリーの流れとして、次期パッケージが登場する・・・というシナリオが描かれているのかもしれませんがね。

PDFJ::Text=HASH(0xb720587c)

海外ではいまだに名作と名高いタイトルです。テキスト量が膨大になったため、2 部作となりました。完全な日本語版はリリースされていないのが残念。ここからは ガーディアンと対決する三部作となります。

Avatar は地球から Guardian と名乗る存在に強引に召喚されて、前作から 200 年後のブリタニアに降り立ちます。この頃のブリタニアでは「フェローシップ」という新興教団が勢力を増していました。彼らは Lord British(まだ存命です・・・長命な理由は彼もまた地球から来た人間だから・・・ということのようです) の八徳政策を支持し協力する振りをしながら、その実 ブリタニアに 3 個のジェネレータを設置してエネルギーを集めていました。その目的は ブラックゲートを作り出して、Guardian の侵攻を開始することでした。Avatar たちはジェネレータを破壊し、フェローシッ

プ教団の幹部を倒して、この事態を収束させていきますが、そのリーダーだけは取り逃してしまいました。ここまでが1作目のストーリー。

ちなみにフェローシップ教団の教えは、なかなか興味深いかも。信者達は「内なる力の三要素 Triad of Inner Strength」と呼ばれる三原理を信奉することが求められました。それは以下の通り

- ・「統一を求めて努力せよ」生きるのに統一は不可欠だ。もしあなた自身の中で言い争うものがあれば失敗し、一つの意思に沿うならば成功するだろう。
- ・「汝の兄弟を信じよ」信用の不足はあなたを傷つける。もし他者を信じなければ、その行動や考え方に常に疑問を抱き、他者を信じるならば、協調して働くことができるだろう。
- ・「人徳は報酬をもたらす」何も無いのに何かを期待してはいけない。自らを価値あるものとせよ。そうすれば報酬は得られるだろう。人生の中で何かを全うせよ。そうすればさらに得るものがあるだろう。

一見、よさげに見えるものですが、これは容易に悪用されます。実際、これがどんな風に解釈されてしまったかと言うと・・・

- ・「統一を求めて努力せよ」フェローシップに属する全ての者は同じ行動を取らなければならない。互いに争ったり異なる意見を持ったりしてはいけない。フェローシップが成すことに疑問を持つ者は、一員として相応しくない。ただ受け入れて、仲間達と同じ行動をせよ。
- ・「汝の兄弟を信じよ」フェローシップに属する全ての者は兄弟である。ゆえに彼らを信じなければならない。もし指導者の行動に疑問を持つようなことがあれば「私を信じられませんか？それならばあなたは良い信者ではありませんね」と言われることだろう。疑問を持つ事の無い聴衆となり、フェローシップ教団の成すことは正しいとひたすら信じよ。
- ・「人徳は報酬をもたらす」フェローシップでは、立派な者だけが報酬を与えられる。立派だと評価されることは名誉なことである。疑問を持たずにフェローシップの意志に従えば、立派であると評価されるだろう。もしフェローシップの名に恥じるようなことを行っても報酬は得られるが、その時は自らが立派であることを証明する重圧に晒されるのである。

こんな感じで、フェローシップ教団は信者達に盲目の忠誠と服従を強要していたわけです。そして、Guardian に操られて、ブリタニア侵攻のために着々と準備をしていたわけですね。

いまだ「Avatar」が現れていない UO では、従って「Guardian」も存在していないような気はします (U9 の展開を参照)。フェローシップ教団というのがキーワードとして現れるようなことがあれば要注意・・・というところでしょうか。

PDFJ::Text=HASH(0xb7002348)

part 2 で、フェローシップ教団のリーダーは「サーペントアイルにいる」という情報を得て追跡に向かった Gueno が消息を絶ちます。これを追う様に Avatar 達もサーペントアイルに向かい、フェローシップ教団のリーダーも倒しました。しかし、フェローシップ教団そのものが「カオスペイン」と呼ばれる存在に操られていたことが発覚します。そして、3体のカオスペインはあろうことか、Avatar の仲間である Iolo・Shamino・Dupre に取り付き、操られた彼らによりサーペントアイルの住人達は虐殺されてしまいました。

Avatar は殺されていた Gueno を甦らせて、カオスペインと戦いを繰り広げましたが、結局、仲間達の一人 Dupre の命を犠牲にして、ようやくカオスペインを倒します。しかし、Avatar 自身は Guardian に囚われてブリタニアとは違う世界に閉じ込められてしまいます。

・・・ここまでが U7 のストーリーとなります。Avatar Companion に初めて死者が出てしまったのですが、Avatar もピンチのまま終わってしまったわけですね。

ところで「サーペントアイル」とは正に「蛇の島」であり、そこに住む種族がUOでも登場するオフィディアン (Ophidian) でした。彼らもまた徳のようなものを信奉しているのですが、これがまた八徳とは異なる体系だったりします。若干複雑ですが、考えさせられます。

まず "秩序 (Order)" "混沌 (Chaos)" "均衡 (Balance)" という3つの原理があります。そして、このうち対極を成す2つの原理 "秩序" と "混沌" から "力 (Force)" が3つずつ生み出されます。6つの "力" は以下のように説明されます (最初の3つが "秩序"、後の3つが "混沌" から生み出される "力" です)。

- ・ "秩序" から生まれる "力"
 - ・ 道徳性 Ethicality 規範を守ることに価値を見出す
 - ・ 規律性 Discipline 完遂に障害となるものを避け、責務を果たすよう努力する
 - ・ 論理性 Logic 偏見から解放された明確な分析を行う
- ・ "混沌" から生まれる "力"
 - ・ 寛容性 Tolerance 全てを受け入れることを推し進める
 - ・ 熱中性 Enthusiasm 大きな責務を果たす力を与える
 - ・ 感情性 Emotion 思考とは対極の心から沸き起こるものを感じ取る

そして残りの原理 "均衡" により、上記の "力" が組み合わせあって「均衡の原理」と言うべき新たな3つの原理が生み出されます。それは以下の通り。

- ・ 調和 Harmony (道徳性 + 寛容性) 自身・他者・世界と平穏に過ごす能力
- ・ 専心 Dedication (規律性 + 熱中性) 障害を乗り越え他者を導く能力
- ・ 合理 Rationality (論理性 + 感情性) 命とそれを取りまく世界を理解する能力

また、"力" には対極となるものがあります。上に挙げた新たな「均衡の原理」では "力" が2つずつ組み合わせされましたが、組み合わせされたどちらかが欠けると、"反力 (anti-force)" が現われてしまい、こうならないように戒められている、というわけです。"反力" は以下の通り。

- ・ 偏見 Prejudice (寛容性なき道徳性) 他者の信念や権利に対する軽蔑
- ・ 冷淡 Apathy (熱中性なき規律性) 前向きな行動を鈍らせる絶望
- ・ 残酷 Ruthlessness (感情性なき論理性) 他者に必要なものを考慮せず進める行動
- ・ 無秩序 Anarchy (道徳性なき寛容性) 規範が欠如した行動
- ・ 屁理屈 Wantonness (規律性なき熱中性) 自分の欲や衝動を抑えられない行動
- ・ 狂気 Insanity (論理性なき感情性) 感情的衝動が合理的考えより優先する行動

言葉の訳は、私オリジナルのもので もっとうまい言い方があるかとは思いますが、おおむね上に書いたような思想を持っているようです。何と言うか「いちいちごもっとも」という体系づけられた考え方ですね。

オフィディアンは、UO ではロストランドでテラサンと争っていますね。そんな彼らが上に書いたような思想を持っているかどうかは窺い知れませんが・・・。U7～U9は徳を極めることとは、どういうことだったのか？ ということを考えさせられる深いストーリーとなっています。その伏線はU4から張られていたのですから。

また、UO においては背徳のダンジョンの一つヒスロスのある島が Serpent Isle と名づけられており、まるでこの教団の本拠地だったのか？と思われるような廃墟や、まるで Abyss の入り口では？と思われるような火山の火口を散見できます。

PDFJ::Text=HASH(0xb6e04b14)

なんとクォータービューのアクションゲームです。それでも、これは間違いなく U8 らしいです。このタイトルでは、閉じ込められた異世界モーゲイリンから脱出するために、この世界を支える 4 人の巨人を倒す Avatar が描かれます。しかし、巨人を倒していく・・・ということは、この世界を崩壊させることであり、自分が帰る為にそんなことをしてもいいのか？ という葛藤が Avatar を襲います。

最終的に、モーゲイリンは Guardian が作り出した架空世界であったことが分かるのですが、世界を滅ぼす「悪」となっていく Avatar の様子を見るのは、なかなか複雑なものがありますね。

このゲームの内容、もう少し調べてみたいのですが、なにぶんにも日本語版が出ていない上に、海外のサイトを探しても豊富な情報があるというわけではないので、なんともいえない部分があります。

U7～U8 の時期に、UO は開発されていました。アクションゲームとしての出来はイマイチ(難易度を下げるパッチが後でリリースされています)だった U8 ですが、そのクォータービューのスタイルなどシステム面が UO にも継承されているといえます。

また、2006～2007 年にわたって繰り広げられているイベントで現われるアイテム「Black Rock」は、モーゲイリンを支えていた 4 巨人の力の源と同じ名前だったりしますが、まあ、関連がある・・・とまでは言い切れないでしょうね(これを書いている時点では、まだ何も分かっていませんが)。

PDFJ::Text=HASH(0xb6e5fe34)

Avatar が偽りの世界に囚われている間(U8 のことです)に、Guardian はブリタニアへと侵略を開始していました。徳の精神は失われ世界は荒廃しています。戻ってきた Avatar の最後の戦いが始まります。

しかし、Avatar は Guardian を倒せませんし、Guardian もまた Avatar を倒せません(だからわざわざ架空世界を作って閉じ込めたのかもしれませんが)。なぜ倒せないのか？ Guardian とは何なのか？ そんな謎を解くべく 黄泉の国を旅した Shamino により、ようやく真相が明らかになります。

U4 で Avatar になった主人公ですが、その時 主人公が捨て去った悪の部分・・・それが Guardian だったのです。つまり、U4 以来 Avatar 自身が問題の元凶となっていたのです。

戦いはさらに苛烈をきわめていきます。エセリアル虚空間に追放された Lord Blackthorn までが、Guardian の力を借りて再登場します。Lord British がじかじかに彼と対峙し、最後の戦いを繰り広げます。

そして Avatar 自身は、究極破壊魔法アーマゲドンを使用して Guardian と共に存在を消滅させ、昇天する道を選びます。これにより、Mondain の宝珠が砕け散って以来、乱れていた世界の均衡は元に戻り、本当の意味での平穏が訪れたのでした。

「アーマゲドン」というキーワードは、UO でも時折見かけます。Black Rock 絡みでも、それを使って発動できるのではないかと取り沙汰されていたりしますね。過去のイベントでも使わ

れていた記憶があります。

いずれは「Guardian」を名乗る存在と戦う日が UO でも来るのでしょうか？ ..しかし、それは UO の終焉をも意味するような気がしてなりません。。。

PDFJ::Text=HASH(0xb6ed4808)

夢に導かれてブリタニアに駆けつけたら、誘拐事件の犯人に仕立て上げられてしまった Avatar。犯人でなければ誘拐された娘を連れ戻して来い、といわれて Great Stygian Abyss に放り込まれてしまう・・という理不尽な展開から始まります。リリース時期は U6 ~ U7 の間ぐらいです。

世界観は「ウルティマ」と共有していますが、開発した所は違うタイトルです。何と言っても、完全 3D で描かれた世界は、当時 (10 年以上前) どころか今見ても感動的といえ、当時のパソコンのハードウェア性能を考えると奇跡に近いかもしれません。

新拡張パッケージに冠せられた「Stygian Abyss」という言葉は、原典から言うところになるはずで、そう考えると次作との兼ね合いをどうしても考えてしまいます。同じ地下世界ということ (?), ガーゴイルが UO では絡むようですが。

PDFJ::Text=HASH(0xb6c1713c)

フェローシップ教団を壊滅させて Guardian の侵攻を食い止めてから 1 年後の復興記念祭。突然、Lord British 城は巨大な Blackrock の中に封じ込められてしまいます。Avatar が出口を求めて城の地下水路を探索すると、異世界へのゲートとなる小さな Blackrock を発見。これを利用して 8 つの異世界を行き来しながら Lord British 城を開放する方法を探し求めます。

リリース時期は U7 ~ U7 part2 の間辺りのようです。

ここでも「Blackrock」なるキーワードが出てきますね。2006 年以来、ブリタニアを騒がせていますな。2008 年現在でも「採掘」していると、時々小さな破片を掘り出すことが出来たりします。そして、これらも関連した大きなイベントが動いています。どうやら「アンダーワールド」系というより、原典の U5 あたりと絡んだストーリーですが、今後の展開がどうなるかは、じっくりと見守っていききたいところです。
